

## 幼児教育・保育における運動遊びの現状と運動指導に対する保育者の意識

○長岡雅美〔武庫川女子大学〕 石川道子〔武庫川女子大学〕

キーワード：幼児、運動あそび、保育者、幼稚園・保育園

幼児期の運動遊びは、運動能力を発展させるだけでなく、社会適応力や認知的発達を促進させることに有効であり、非常に重要な意味を持つ。しかし近年では、著しい運動量の不足と多様な動きの経験不足が指摘され、このことが子どもの体力・運動能力の長期的な低水準化の要因の一つと考えられている。これらを踏まえると、幼児期において必要な身体活動を質・量ともに確保することが急務であり、特に幼児が最も活動的な時間の大半を過ごしている幼稚園や保育園に期待される役割は大きい。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼児期運動指針などでは、幼児に対する身体活動を推奨しているものの、これらのニーズに対して、実際に指導現場で直接幼児たちにかかわる保育者の意識や保育観、運動あそびの現状を明らかにした研究は多くない。体育・スポーツの専門指導員や保育者による運動遊びの指導が、運動能力の発達に貢献し得るか否かについてはさまざまな報告がなされているが、幼児の活発な活動を引き出すための環境を整えるという点については共通して重要である。そこで本研究は、保育者を対象に調査を実施し、幼児教育・保育における効果的な運動遊びの実践に繋がる基礎資料を得るため、運動指導に対する意識や考え、遊具や施設、運動あそびの時間、活動内容を含めた運動環境を整理する。